



Atsuko Tanaka
—田中敦子—

素天蓮州

STAINLESS STEEL BAR & WIRE

NABEKURA

鋼倉金属工業株式会社 和田山工場

〒669-5252 兵庫県朝来郡和田山町筒江字中山165番地7

TEL 0796 (74) 2011 (代) FAX 0796 (74) 0150

OSAKA・TOKYO





プロフィール

うえだけんいち（豊岡市出身）
才能教育音楽学校にて、鈴木鎮一氏と高橋利夫氏に師事。1982年に渡米し、アイオワ州のプリューセル音楽学校とコーネル大学でフルートを教え、ジョフアリー・ギルバート氏に師事。86年ワシントン州に移り、「サマースター」と西ワシントン大学フルート科講師を勤める。90年ニューヨークのアメリカハーブ協会のコンクールでフルートとハーブの二重奏で優勝。スカジェット・ヴァレー交響楽団の首席フルート奏者となり、尾高尚忠のフルート協奏曲の合衆国初演を行う。ミネアポリス美術館、ノース・テキサス大学など各地でリサイタルを行い、シアトル・ヤング・アーティスト音楽祭やトロントのロイヤル・アカデミー音楽祭などの審査員も勤める。アメリカ・スズキ協会公認のティーチャー・トレーナーとして、アメリカ・カナダ・オーストラリアの子供達や先生達を指導している。99年フランスのサンタムールにおけるルイ・モイーズ国際マスタークラスに参加。



「オープン・ザ・トーン」
鐘をついたような声が講堂に響きわたります。1979年、フランス派フルートの名手マルセル・モイーズの講習会がホノルルのハワイ大学で開かれた時のことです。各国から集まった笛吹き達は92歳になる巨匠の表情の変化やジェスチャーも見逃すまいと真剣です。レッスンを受けている生徒は先生のお声に一瞬驚いた様子でしたが、先生その言葉に感応して、より生き生きと吹き始めました。

一般にフルートは歌口の穴を唇でふさぐと音色は暗く、開けると明るい音色になります。その度合が過ぎると音が詰まったり、息が出過ぎてザザー鳴ったりしてしまうのですが、その生徒はとても良い音で吹いていたので、先生のおっしゃっていたのは単に技術的な問題ではなかったのかも知れません。

その後、私はバーモント州におられたモイーズ先生に師事する夢を秘めてアメリカに渡りましたが、残念なことに先生は間もなくお亡くなりになり、私にとつての「オープン・ザ・トーン」は禅における公案のように頭の奥に張り付いていました。

ロダンに学んだ日本の彫刻家 荻原碌山は、ヨーロッパを去る時ロダンに宛てて「先生のような偉大な師なくして、これから私はどうしたらよいのか

わかりません」と書き送ったそうです。ロダンはそれに対して「ギリシャの彫刻や私などの真似などしてはどうなる。大自然こそはお前の師である。故郷の自然に学べ」と語ったそうです。

慈しみ深い美しさをたたえて悠々と流れる円山川、雄大で変化に富んだ山並み、魂に響く音をたてて砕け散る日本海の荒波。但馬の自然には言葉で言い尽くせない魅力があります。その自然に囲まれて生きてきた私達ひとりひとりに、美しい自然に育まれた感性というものはあります。

以前アメリカの子供達と但馬で演奏会をしたおり、豊岡小学校の子供達が「となりのトトロ」の歌を歌ってくれました。その生命に満ちた歌声に浸った時、但馬の大地から溢れ出た若いエネルギーを思い、ふと「オープン・ザ・トーン」とは、こういう事なのかなと思いました。この子供達のように「心を開け！」とモイーズ先生はおっしゃったのではないかと…。

残念なのは街角に行く私達大人の表情の中に、あの時の子供達のような笑顔を見ることが少ないことです。

私達はもう一度大自然の中に出て、深呼吸をしなければなりません。

「オープン・ユア・ハート！」という声を聞くために。